

Uターンのススメ

私たちの住む上関町では、ほとんどの人が高校（早い人は中学校）を卒業すると、進学するにしても就職するにしても、一旦は地元を離れ、都会あるいは県内の大きな街へ出ていくのが普通です。町内に就職できる人は少なく、そのまま町外に就職する人がほとんどでした。これが自然な流れで、どんどん人口が流出していききました。そして今年、ついに町の人口が3千人を下回ってしまったのです。

このような状況は上関町だけに限らず、多くの地方自治体が同じような悩みを抱えており、今はUターンやターンの受け入れに力を入れてきていますが、特に高齢化と人口減少の激しい上関町は、本気でこの問題に取り組んでいかなければならないと思います。

◎「故郷に帰ろうか」と一度は誰もが思う

故郷を離れ、都会で暮らしている人の中には、「将来も都会に住み続けるか、いつかは故郷に帰ろうか」と思い悩んでいる人も、少なからずいらっしゃいます。むしろ、一生のうち一度は、誰でもそういう想いを抱くことがあるのではないのでしょうか。そんな時、その人たちに、故郷に帰る決心をしていただくには、どうすればいいのでしょうか？

◎Uターンの決め手は？

「Uターンしよう」と決心する決め手は何でしょうか？ 人それぞれ、いろいろな条件があると思いますが、

①「Uターンしても、なんとかが生活してい

ける」と思える。

たとえば・・・

- ・ 仕事や収入が確保できる
- ・ 今までの蓄えで当面はやっていける
- ・ 年金がもらえる
- など。

②Uターンすることの大義名分がある。

- たとえば・・・
- ・ 地域の役に立ちたい
 - ・ 豊かな自然環境の中で生活したい
 - ・ 親の介護のため
 - ・ 第二の人生を故郷で始めたい
 - など。

この二つの条件を満たせば、Uターンの決心をする可能性は高くなるでしょう。「故郷にぜひ帰ってきて欲しい」という、地域（同級生や家族など）からの声や、きつと、その背中を押すことになることでしょう。

◎上関町に暮らすメリット

都会に比べると不便と思われる上関町ですが、インターネットや宅配便の発達、道路事情の改善によって、昔ほど不便ではなくなっていますし、逆に、ここで暮らすことのメリットも意外と多いのです。

①通勤事情・・・都会では、会社まで満員電車で詰め込まれ、片道1時間なんてことは普通で、片道2時間かかる人さえいます。これに比べて、上関町内なら徒歩で数分

という職場も多く、柳井市内まで通勤しても車で30分もあれば到着します。渋滞もほとんどなく、眺めの良い海岸線を快適に走ることができ、都会並みに片道1～2時間かけても良いのなら、光、下松、周南、岩国あたりまでは通勤圏内ともいえます。そして考えると、町内に就職先が見つから

なくても、周辺の町に通うという選択肢も十分考えられます。

②住宅事情・・・東京都内のアパートではワンルームでも家賃は月8万円前後、2DKなら10～15万円くらいかかります。これに対して、上関町の実家に戻ってくれば家賃はゼロ、空き家になっている親戚の家を借りても月に1～2万円程度で済むことが多いでしょう。町営住宅でも、月に2～4万円で借りることが出来ます。

③自然環境・・・上関町の自然や景観は誰が見てもすばらしく、このような環境で暮らせることは、都会に住む人から見ると羨ましいほどでしょう。

上関町内には耕作放棄地も多いため、畑を借りて家庭菜園を始めることも比較的簡単にでき、野菜などの自給もある程度可能です。海も近いので、釣りも手軽にできます。

④保育事情・・・上関町内には二つの保育園があり、離島を除けば、都会のような待機児童の問題はゼロです。

⑤介護事情・・・町内に特別養護介護施設（特養）が一つあります。都会では特養に入れずに待機している高齢者が非常に多く、問題になっていますが、こちらでは、町内の施設や周辺自治体にある施設に、都会ほど待たずに入所することが出来ます。

⑥近所づきあい・・・都会では近所づきあいが希薄で、隣の部屋にどんな人が住んでいるかも分からないようなこともあります。地元で暮らすと、近所さんはみんな昔からの顔なじみ。気心の知れたコミュニティの中で暮らすことは、何かと心強いです。

いかがでしょうか？ 都会に住むより、上

関町で暮らす方が、メリットがあると思いませんか？

◎Uターン者をサポートする体制作りを

Uターンの場合は、Uターンと違って、実家があったり、親戚の家を借りたりすることが比較的容易なので、住居の確保はあまり難しくないと思います。

一番の問題は、やはり仕事の確保でしょう。車で1時間程度を通勤範囲と考えれば、ハローワークで割合広範囲の仕事を探すことができます。しかし、地元での雇用があれば、優先的に紹介したり、友人・知人のコネで仕事を探すなどのサポートも必要になると思います。もし、個人で起業される場合にも、できるだけ協力してあげるといいですね。せっかくUターンを決意してくれたのですから、地元に住住できるような、周りの人がしっかりサポートしてあげましょう。

また、地域の行事などには、自治会の役員さんや同級生などが、Uターンしてきた人を積極的に誘ってあげましょう。「故郷の役に立ちたい」という意識をもってUターンされる方が多いと思いますので、地域でのネットワークを広げ、地域社会での役割を担っていただくこともとても重要です。

このようなサポート体制を作り、Uターンした人が地域社会で生き活きと暮らす姿を見ることで、他のUターン希望の方が安心して、Uターンを決意しやすくなるのではないのでしょうか。ぜひ、町を挙げて、この問題に取り組んで欲しいと思いますし、出身者の方は、前向きにUターンを考えて欲しいです。



◎「わいわいタイムス」11月号は11月6日(日)に発行予定です。